

チ栽培に適性ある品種について問題があり、また不明の点も多いので、栽培法は勿論品種改良までに問題を残している。

7) 土地利用の問題

これらについては、作業面・地力面からの作付体系、適性規模など検討するとともに経営の評価と併行して実証につとめなければならない。

最近の海外関係ニュース

① ハワイ大学・オレゴン州立大学の共同計画による除草剤試験に、わが国からは、財団法人日本植物調節剤研究協会経由で、CNP(MO)乳剤・STI-100乳剤・SW-6721乳剤・SW-6802乳剤・TDW-6643乳剤・TDW-39乳剤が送られ、よい成績をあげているようである。

② 雑草防除学関係の第1回国際学会が、アメリカ雑草学会の発案で計画されていたが、最近のローマFAO本部からの連絡によると、1969年の夏、多分、アメリカのカルフォルニア州デービスで開催される予定のようである。

③ アジア・太平洋地域における雑草防除技術交換会議は、昨年ハワイで開催され、わが国からも9名の参加者があって盛況であった。次の会議は、技術研修を中心に今年の12月

フィリッピンで開催される予定であったが、アメリカの諸情勢から、当分延期されることになった。また昨夏の会議のProceedingの発刊もおくれているようである。

④ アメリカ化学会(ACS)の第155回全国大会が、3月31日～4月5日にサンフランシスコで開催される。その農薬分科会の主催で、「除草剤の作用機作」に関するシンポジウムが開催され、各種除草剤の作用機作(エネルギー代謝・光合成・核酸代謝)の講演、討論が行なわれる。わが国からは、農林省農業技術研究所 生理遺伝部 松中昭一技官が、アメリカ化学会に招待されて参加し、「ジフエニルエーテル系除草剤の作用機作およびDCPAに対する殺虫剤の共力効果」について講演を行なうことになっている。